記者発表資料

平成２３年３月３１日

弘前公園周辺の水質等の改善実験を継続します

～　岩木川からの取水　～

弘前市・青森河川国道事務所・津軽ダム工事事務所が共同で実施

弘前公園は、弘前城や濠の桜並木が全国でも有数の規模を誇り、桜祭り期間中は約２００万人の観光客が訪れる、日本を代表する桜の名所です。

ところが、弘前公園の濠においては、アオコが発生するなど水質の悪化が問題となっていました。弘前市では様々な取り組みを実施し、長年、水質の改善に努めてきましたが、効果が十分でなかったことから、弘前市と国において抜本的な対策を検討し、岩木川から導水することによって、濠の水質改善を図る試みを社会実験として平成２０年から３年間実施しました。

３年間の社会実験を踏まえ、本格的な導水の運用に向けた課題や新たに確認すべき事項が整理され、その確認等を行うために引き続き社会実験を継続することにしました。

なお、導水するための取水は、岩木川の水を利用します。現在では夏場の渇水時において取水することが難しい期間がある場合がありますが、津軽ダムが完成すると岩木川は通年、安定した流量となり、当浄化用水の取水が安定的に可能となります。

社会実験以前の水量が減少した状態の西濠



水量が確保された西濠(H20.4.23)



■社会実験（Ｈ２０～Ｈ２２）の結果について

１．弘前城西濠に岩木川の水を導水し、希釈効果を高めたことにより、年間を通して環境改善に大きな役割を果たしたものの、導水する水量により、水質改善効果に違いがあることが明らかになった。なお、外濠・中濠・内濠については、水質は横ばい状態で改善傾向には至らなかった。

２．西濠では３年間の社会実験を通じて、水質や景観の変化を確認してきた。
　その結果、ＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）については７５%値で２．０ｍｇ／ﾘｯﾄﾙ以下（河川Ａ類型基準）の水質が確認できた。

３．導水元である岩木川上岩木橋地点の水質と、西濠の水質を比較すると、若干の数値の上昇はあるものの、ほぼ環境基準はクリアしている結果となった。

４．実験期間の間は、悪臭、アオコの発生に関する苦情は無かった。また、景観的には、潤いのある水辺の創出が出来た。

■課題、新たに確認すべき事項　等

１．西濠については、導水量と水質の関係を調査し、最適導水量を決定する。

２．外濠・中濠地点の水質調査地点を増やして、水質状況（改善度合い）について把握する。外濠・中濠については導水量が十分でなかったため、水質は横ばい状態で改善傾向にならなかった。よって、濠への導水量を増やして水質改善効果の確認を行う。

３．以上の結果を踏まえた、濠への最適導水流量の検証を行う。

発表記者会：青森県政記者会、弘前市記者室、建設関係専門紙、津軽新報社

問い合わせ先
弘前市（０１７２－３５－１１１１）
建設部土木課長　　佐々木　衛
商工観光部公園緑地課長　　加藤　雅通
国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所（０１７－７３４－４５６０）
調査第一課長　　福田　修
国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所（０１７２－８５－３００５）
調査設計課長　　田川　和義

社　会　実　験　（継　続）　概　要

■社会実験期間：平成２３年・２４年の２年間を目標
（濠の最適導水量の検証が出来た段階で、本格運用に移行する予定）

■社会実験概要

①導水取水地点：消流雪用水取水樋門
住所　弘前市大字五所字里見１２２－１地先（旧相馬村）
場所　主要地方道岩崎西目屋弘前線　里見橋から５０ｍ上流

②実験延長

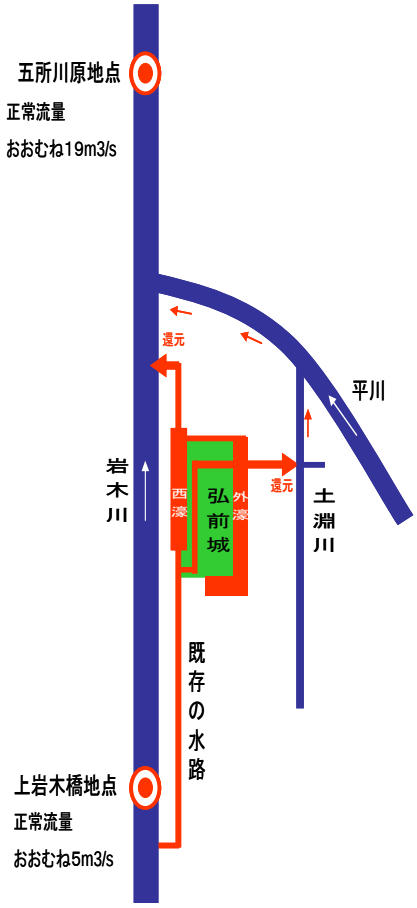
7,000m　562m　1,438m
消流雪揚水取水樋門　→　西濠起点　→　西濠終点　→　岩木川　計　９，０００ｍ

準用河川（二階堰川）

- 外濠　2,500m
- 中濠　1,190m
- 内濠　620m
- 蓮池

導水実験イメージ

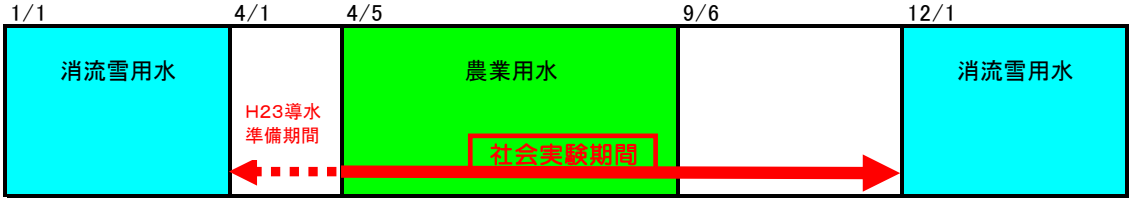




③濠への導水量　　濠への導水量を増減させて、水質との関係、景観との関係等について検証し、最終的に濠への適正な導水量を決定する

④導水期間

導水期間は、消流雪用水導水期間の１２月１日～３月３１日を除く期間としています。



※平成２３年は４月５日からの導水を開始。平成２４年は４月１日から導水を開始。

⑤水質調査の主な項目

・　ＢＯＤ・・・河川の環境基準として測定
・　ＣＯＤ・・・湖沼（濠）の環境基準として測定
・　総窒素・・・富栄養化を把握するために測定
・　総リン・・・富栄養化を把握するために測定

⑥取水基準

渇水時等、岩木川の流況が悪い時期は、社会実験の取水を取りやめます。